

第 83 回 幹 事 会

平成 21 年 10 月 19 日

日 本 学 術 会 議

第83回幹事会議事次第

日時：平成21年10月19日（月）16：00

- | | | | |
|--|---------|--|--|
| I 非公開審議事項
1 委員会関係 | 提案1 | 国際人権ネットワーク対応委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 | |
| | 提案2 | 日本の展望委員会及び同分科会の委員の決定 | |
| | 提案3 | 科学者委員会の委員の決定 | |
| | 提案4 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 | |
| 2 その他 | | | |
| II 審議事項
1 団体等の指定
2 国際会議関係

3 シンポジウム等

4 後援 | 提案5 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 | |
| | 提案6 | 第10回アジア学術会議に関するフィリピン国立研究協議会（National Research Council of the Philippines: NRCP）との事前打合せに係る会員の派遣 | |
| | 提案7 | シンポジウム「アジア文化の多元性と共存—宗教と思想の視線から—」 | |
| | 提案8 | 市民対象 公開講演会「地域資源の活用を図り、地域と共に知を育み生かす学習～国や地方公共団体等が取り組む、自然フィールドを使った体験学習 体験学習を通じた、人間力の向上と実社会との連携～」 | |
| | 提案9 | シンポジウム「歴史教育とジェンダー—教科書からサブカルチャーまで」 | |
| | 提案10 | シンポジウム「学術コミュニティと知的財産制度」 | |
| | 提案11 | 公開シンポジウム「持続可能な食料生産：RS/GIS/GPS技術の応用」 | |
| | 提案12 | 公開シンポジウム「第3回形態科学シンポジウム：『生命機能の場を提供する生体膜』—その創成とトポロジー形成—」 | |
| | 提案13 | 第59回理論応用力学講演会 | |
| | 提案14 | 国内会議 | |
| | III その他 | | |

資料2

第83回幹事会（10月19日）出席者一覧

会長		金澤 一郎
副会長		大垣 眞一郎
副会長		鈴木 興太郎
副会長		唐木 英明
第一部	部長	広渡 清吾
第一部	副部長	小林 良彰
第一部	幹事	木村 茂光
第一部	幹事	山本 眞鳥
第二部	部長	浅島 誠
第二部	副部長	北島 政樹（欠席）
第二部	幹事	山本 正幸
第二部	幹事	鷺谷 いづみ
第三部	部長	岩澤 康裕
第三部	副部長	後藤 俊夫
第三部	幹事	池田 駿介
第三部	幹事	海部 宣男

事務局長 竹林 義久

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 審議付託等	1
3 賞等の推薦	1
4 委員会委員の辞任	1
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	2
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	2
3 機能別委員会の開催とその議題	2
4 分野別委員会の開催とその議題	2
5 課題別委員会の開催とその議題	6
6 総合科学技術会議報告	6

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
10月1日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
10月1日(木)	表敬/スウェーデン王立科学アカデミー会長	金澤会長、唐木副会長、綱木次長
10月4日(日) ～5日(月)	S T Sフォーラム 2009 Academy Presidents' Meeting (4日)	金澤会長、綱木次長
10月7日(水)	J E T R O 「科学技術と産業」国際シンポジウム ※ご挨拶	金澤会長
10月8日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
10月11日(日)	近畿地区会議及び学術講演会 ※ご挨拶、基調講演	金澤会長ほか
10月13日(火)	日本学士院秋季懇親会	金澤会長
10月15日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長

2 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
平成21年度工学教育連合講演会	社団法人日本工学教育協会会長	第三部
学術刊行物の指定	郵便事業株式会社各支社長	科学者委員会

3 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
THE WORLD FOOD PRIZE	各部	照会中
King Faisal International Prize	各部	照会中
FONDATION FYSSSEN 賞	各部	推薦なし
第9回(2009年度)グリーン・サステイナブル ケ ミストリー賞	各部	推薦なし
第15回「日経アジア賞」	各部	推薦なし

4 委員会委員の辞任

- 日本の展望委員会人文・社会科学作業分科会 佐藤 学(平成21年10月1日付)
- 日本の展望委員会 佐藤 学(平成21年10月7日付)
- 科学者委員会 佐藤 学(平成21年10月13日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) **第一部拡大役員会** (第7回)・**日本の展望委員会** 人文・社会科学作業分科会
(第9回) 合同会合 (10月1日)
- ①報告
 - 1) 幹事会
 - 2) 機能別委員会
 - 3) 日本の展望・起草分科会
 - 4) その他
 - ②協議事項
 - 1) 「日本の展望—人文・社会科学からの提言(案)」について
 - 2) 第1部の今後の取り組みについて
 - 3) その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) **日本の展望委員会** 大学と人材分科会 (第7回) (10月1日)
- ①報告 (日本の展望委員会ほか) ②提言案について ③その他
- (2) **日本の展望委員会** 基礎科学の長期展望分科会 (第11回) (10月7日)
- ①報告書(案)とりまとめについて ②その他

3 機能別委員会の開催とその議題

- (1) **科学者委員会** 学術の大型研究計画検討分科会 (第8回) (10月5日)
- ①理学・工学分野、人文・社会学分野ヒアリング
 - ②10月総会における中間報告または検討状況の報告について
 - ③今後の進め方について ④その他
- (2) **科学者委員会** 広報分科会 (第7回) (10月5日)
- ①日本学術会議の広報活動について ②『学術の動向』への編集協力について

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

- (1) **心理学・教育学委員会** 心と身体から教育を考える分科会
(第3回) (10月6日)

- ①分科会の今後の活動方針について
- ②2010年開催予定のシンポジウムについて ③その他

(2) **政治学委員会 比較政治分科会** (第1回) (10月9日)

- ①今後の活動方針
- ②日本政治学会およびその他の学会年度大会における共催部会の企画
- ③その他

(3) **政治学委員会 民主主義と信頼分科会** (第2回) (10月10日)

- ①報告事項：分科会の活動状況について
- ②協議事項：21期における政治学委員会及び各分科会の提言について
- ③その他

(4) **心理学・教育学委員会 脳と意識分科会** (第3回) (10月11日)

- ①シンポジウムの議事進行打合せ
- ②10月31日開催の3分科会連携シンポジウム(社会性脳)の打合せ
- ③次年度スケジュールと内容についての協議 ④その他

(5) **政治学委員会 行政学・地方自治分科会** (第2回) (10月11日)

- ①道州制シンポジウムの打合せ ②その他

(6) **経済学委員会 数量的経済・政策分析分科会** (第2回) (10月11日)

- ①日本経済学会でのチュートリアルセッションについて
 - 1)平成22年春季大会でのセッション開催の進捗状況
 - 2)次回(平成23年)のテーマ
- ②関西計量経済研究会での政策評価特別セッションについて ③その他

(7) **史学委員会 歴史認識・歴史教育に関する分科会** (第5回) (10月17日)

- ①史学委員会主催の歴史教育シンポジウムに関する準備と打ち合せ ②その他

(8) **地域研究委員会 多文化共生分科会** (第5回) (10月18日)

- ①発表「カナダの多文化主義—政策としての特質と課題」
(大東文化大、加藤普章)
- ②発表「多文化主義からポスト多文化主義へ?～アメリカ合衆国の場合」
(竹沢泰子)
- ③報告：AASSREC会議「グローバル化する世界における多文化主義：
アジア太平洋からの視点」(山本眞鳥)
- ④シンポジウム計画 ⑤その他

(9) **心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同**

高校地理歴史科教育に関する分科会（第5回）（10月18日）

- ①「高大接続テスト構想について」（北大、佐々木隆生） ②その他

第二部担当

(1) 農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分科会
(第4回)（10月2日）

- ①分科会WG「知能的太陽光植物工場」について
②分科会WG「農林水産RS/GIS」について
③公開シンポジウム「持続可能な食料生産：RS/GIS技術の応用」について
④その他

(2) 農学委員会・食料科学委員会合同・健康・生活科学委員会合同
食の安全分科会（第3回）（10月2日）

- ①提言骨子案の検討について ②日本の展望委員会について ③その他

(3) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、
環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
(第6回)（10月5日）

- ①提言の方向性について ②今後の活動スケジュールについて ③その他

(4) 食料科学委員会 獣医学分科会（第2回）（10月6日）

- ①シンポジウムの打ち合せ ②今後の活動方針について ③その他

(5) 農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同
食の安全分科会（第4回）（10月6日）

- ①シンポジウムの打ち合せ ②今後の活動方針について ③その他

(6) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学委員会合同 総合微生物科学
分科会（第2回）、基礎生物学委員会・農学委員会・食料科学委員会・基礎
医学委員会・臨床医学委員会合同 IUIMS分科会（第3回）（10月8日）

- ①IUIMS2011札幌の準備状況についての報告（日本微生物学連盟）
②IUIMS2011札幌に対する今後の両分科会の支援について
③両分科会の2年次の活動について ④その他

(7) 食料科学委員会 畜産学分科会（第3回）（10月8日）

- ①今後の畜産学分科会の活動について
1) 対外報告
2) シンポジウムの開催
②その他

- (8) 応用生物学委員会 (第6回) (10月12日)
- ①サイエンスアゴラの準備状況
 - ②COP10に向けた統合生物学委員会の活動計画について
 - ③ヒアリング 生物多様性条約第10回締約国会議支援実行委員会より
 - ④その他
- (9) 食料科学委員会、基礎医学委員会、臨床医学委員会合同
新興・再興感染症分科会 (第2回) (10月14日)
- ①新興感染症に対する学術会議の提言について
 - ②新型インフルエンザに対する学術会議の対応・提言について ③その他
- (10) 健康・生活科学委員会、歯学委員会合同 (新) 脱タバコ社会の実現分科会
(第5回) (10月15日)
- ①神奈川県禁煙条例について (瀬戸副委員長)
 - ②新政権への脱タバコ対策に関する働きかけについて
 - ③今後の方針について ④その他

第三部担当

- (1) 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 (第3回) (10月1日)
- ①「日本の展望」について ②大型施設・大規模研究の調査について
 - ③物一分野シンポジウム (H22.01.27) について ④その他
- (2) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会 (第8回) (10月2日)
- ①各分科会からの検討・報告 ②日本の展望
 - ③地球惑星科学における大型研究計画 ④学協会との学術会議の連携
 - ⑤地球惑星科学連合からの報告 ⑥その他
- (3) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第5回) (10月6日)
- ①「知の統合体系化小委員会」からの報告
 - ②「知の統合推進小委員会」からの報告
 - ③「知の統合のための取り組み」に関して話題提供
 - ④「日本の展望 (知の統合関係)」について ⑤その他
- (4) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会 (第4回) (10月8日)
- ①環境政策・計画の枠組み再構築に向けた各委員からの提案
 - ②議題①についての意見交換 ③その他
- (5) 土木工学・建築学委員会 低炭素建築・都市分科会 (第4回)、土木工学・

建築学委員会 社会資本分科会（第4回）合同分科会（10月8日）

- ①話題提供：長谷見委員 ②今後の活動 ③その他

(6) 機械工学委員会 生産科学分科会（第2回）（10月9日）

- ①小委員会について ②分科会の取りまとめ方針
③シンポジウム企画について
④話題提供：藤本 隆宏教授（東京大学）
「ものづくり経営の動向と学術的検討課題」
⑤その他

(7) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFE0分科会
（第6回）（10月13日）

- ①WECの日本招致について ②その他

(8) 土木工学・建築学委員会 地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応
分科会（第4回）（10月14日）

- ①水害・土砂災害対応への地域の取り組みについて ②今後の方針について
③その他

5 課題別委員会の開催とその議題

(1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会

大学と職業との接続検討分科会（第9回）（10月13日）

- ①今後の検討の方向性について ②その他

(2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
（第10回）（10月14日）

- ①分野別の参照基準について ②今後の検討の方向性について ③その他

6 総合科学技術会議報告

1. 本会議

なし

2. 専門調査会

○基本政策専門調査会（第1回） 10月1日

- (1) 「基本政策専門調査会議事運営規則」について
(2) 第4期科学技術基本計画の検討のフレームワークについて

(3) その他（報告事項）

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 10月 1日 *会長出席
- ・ 10月 8日 *会長出席
- ・ 10月15日 *会長出席

審 議 事 項

		頁
II 審議事項		
1 団体等の指定	提案5 日本学術会議協力学術研究団体の指定	1
2 国際会議関係	提案6 第10回アジア学術会議に関するフィリピン国立研究協議会 (National Research Council of the Philippines: NRCP) と の事前打合せに係る会員の派遣	3
3 シンポジウム等	提案7 シンポジウム「アジア文化の多元性と共存—宗教と思想の視線 から—」	4
	提案8 市民対象 公開講演会「地域資源の活用を図り、地域と共に知 を育み生かす学習～国や地方公共団体等が取り組む、自然フィ ールドを使った体験学習 体験学習を通じた、人間力の向上と 実社会との連携～」	6
	提案9 シンポジウム「歴史教育とジェンダー—教科書からサブカル チャーまで」	8
	提案10 シンポジウム「学術コミュニティと知的財産制度」	10
	提案11 公開シンポジウム「持続可能な食料生産：RS/GIS/GPS技術の応 用」	12
	提案12 公開シンポジウム「第3回形態科学シンポジウム：『生命機能 の場を提供する生体膜』-その創成とトポロジー形成-」	14
	提案13 第59回理論応用力学講演会	16
4 後援	提案14 国内会議	18
III その他		

5	
幹事会	83

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

日本無機リン化学会

団体の概要

- 日本無機リン化学会
会員の研究発表、情報の交換、会員相互の連絡提携の場となり、リンを含有する無機物質及びそれに関する物質または関連現象に関する科学、技術の発展・利用を図ることを目的としている。

6	
幹事会	83

提 案

第10回アジア学術会議に関するフィリピン国立研究協議会（National Research Council of the Philippines: NRCP）との事前打合せに係る会員の派遣

- 1 提案者 国際委員会委員長
- 2 議案 標記について、下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第10回アジア学術会議に関するフィリピン国立研究協議会（NRCP）との事前打合せに以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 村岡 洋一（第三部会員、アジア学術会議事務局長）
- 5 打合せ期間 平成21年12月3日（木）～4日（金）
- 6 派遣場所 マニラ（フィリピン）
- 7 開催趣旨 アジア学術会議（Science Council of Asia : SCA）は、日本を含むアジア地域の11カ国の19機関のアカデミー等を構成メンバーとして2000年に発足し、翌2001年からメンバー国持回りにより毎年1回総会を開催している。第10回アジア学術会議は、2010年6月13日から16日の間フィリピン国立研究協議会（National Research Council of the Philippines: NRCP）が主催してマニラで開催予定となっている。
第10回総会開催に先立ち、主催機関であるフィリピン国立研究協議会を訪問し、開催内容等について事前打合せを行うこととする。

7	
幹事会	83

提 案

シンポジウム「アジア文化の多元性と共存—宗教と思想の視線から—」の開催について

- 1 提案者 哲学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

- 1 主 催 日本学術会議哲学委員会
- 2 共 催 日本宗教研究諸学会連合、日本哲学系諸学会連合
- 3 日 時 2009年11月28日（土）13時00分～16時30分
- 4 場 所 日本学術会議講堂
- 5 分科会 同日に分科会開催予定

6 開催趣旨

西欧文明の卓越性への疑問が沸き上がってきてから、かなりの時が経過している。とくに21世紀になり、地球環境の悪化がいつそう深刻化し、人類未来の危機がますます現実化しつつある現在、人類のあらゆる叡智をもう一度洗い直そうという機運が満ちてきている。そのなかでも古くから高度の文明を築いてきたインド、中国を中心とするアジア文明の深遠さと可能性について、ますます注目が集まっているといっても過言ではない。

もちろんアジアといっても一様ではない。21世紀に入り、ヨーロッパにおいてはEU（欧州連合）がますます拡大しているが、アジアには、EUを構成する諸国に見るように一様な共通性があるわけではない。むしろアジアの特徴は多元性にあるといえよう。しかしその多元性は、多くの価値が共生しているという点に、他の文明にはない特徴を有しているといえるのではなかろうか。

現代の世界においては、経済レベルを中心に、ますますグローバル化が進行している。しかしそれと同時に、グローバル化への反発と、価値の多様化がいつそう顕著になっていることも、われわれは事実として認めなければならないであろう。

こうした複雑な様相の現代世界において、ますますその存在感を増しているア

ジア文明の重要性を、われわれは今あらためて注視しないわけにはいかない。そこでこのシンポジウムは、人文学諸分野、とりわけ哲学・思想、宗教、倫理等の専門研究者があい集い、あらためてアジア文明の多元性のもつ意味と、その近未来的な価値を論じてみようとするものである。

7 次 第

- ・ 報告者：斎藤 明（東京大学教授、連携会員）
「アジアと仏教—＜輪廻＞説の受容と変容の視点から—」
塩尻和子（筑波大学副学長）
「アジア文化のなかのイスラーム」
黒住 真（東京大学教授、連携会員）
「近代日本哲学における宗教とその後」
池上良正（駒澤大学教授）
「東アジアの『民俗宗教』に見る葛藤と共存—『死者供養』を事例に一」

- ・ コメンテーター：堀池信夫（筑波大学教授、連携会員）
月本昭男（立教大学教授、連携会員）

- ・ 司会：星野英紀（大正大学教授）
神崎 繁（専修大学教授、連携会員）

8 関係部の承認の有無：第一部承認

8	
幹事会	83

提 案

市民対象 公開講演会

「地域資源の活用を図り、地域と共に知を育み生かす学習
～国や地方公共団体等が取り組む、自然フィールドを使った体験学習
体験学習を通じた、人間力の向上と実社会との連携～」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会、宇部市、山口大学、長州科楽維新プロジェクト運営委員会、やまぐち環境ネットワーク
2. 共 催：宇部環境国際協力協会
3. 後 援：山口県教育委員会、宇部市教育委員会、宇部コンベンション
4. 日 時：平成21年12月3日（木）13：00～17：00
5. 場 所：宇部全日空ホテル（山口県宇部市相生町8-1）
6. 分科会の開催：当日分科会を開催
7. 開催趣旨：

農業生産環境工学分野は、人間の生命に必要な食料を供給するとともに、生物との共生を考える重要なフィールドを提供する場である。人間の存在を自然、環境、生態系、生産社会の関わり合いの中で総合的にとらえ、持続可能で循環型の社会を実現する能力を習得させ、それに向かって努力する過程の大事さを考えさせる学習の場となる。一方、環境教育の基礎は、「自然に親しむ」「自然を知る」「自然を守る」といわれており、到達点はライフスタイルを見直し、自然と共生する実践する力を身につけさせることである。このため幅広く、環境教育とは何か、どんな考えでどのよう

に行なっていけばよいのか、といった基本的な理念・哲学といったものの教育を行なう必要がある。また、これまでのように、教科書にあることを教えていくという考え方に立ってはいは、学際的な広い要素をもち、地域の実情や実生活に大きく関連する環境教育は、創っていくことはできない。地域の人材を資源と考え、地域の実情に応じた教材を作ったり、それを活用しながら子供たちと一緒に地域を活性化していく必要がある。本講演会では、国や地方自治体などが取り組んでいる自然のフィールドを使った体験学習を紹介する。そして、体験学習は、ただ単に基礎知識を学ぶだけでなく、実社会との接点をもつことにより、実感として環境をとらえて行動する能力（＝人間力）を身につけさせることの大切さについて議論する。

8. 次 第：

13：30～13：45 挨拶

- ・真木太一（日本学術会議第二部会員・農業生産環境工学分科会委員長）
- ・丸本卓哉（山口大学学長）
- ・久保田后子（宇部市長）

13：45～17：00 講演

- ・13：45～14：05 五島政一（文部科学省）：新学習要領を踏まえて、体験学習をどのように実践するか
- ・14：05～14：25 林 京子（環境省）：環境省で実践する授業に活かす環境教育
- ・14：25～14：45 徳本正（山口県教育委員会）：山口県での地域とともに知を育み活かす取り組み事例
- ・14：45～15：00 休憩
- ・15：00～15：20 浮田正夫（山口大学名誉教授）：宇部方式による国際環境教育
- ・15：20～15：40 早川誠而（日本学術会議連携会員、ときわミュージアム）：ときわ公園を活用した体験学習の取り組み
- ・15：40～16：00 岡村吉永（山口大学教育学部）：教員養成における取り組み事例
- ・16：00～16：20 崎山智司（長州科楽維新プロジェクト、山口大学准教授）：地域科学ネットワークの形成に向けて
- ・16：20～17：00 総合討論

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

9	
幹事会	83

提 案

シンポジウム「歴史教育とジェンダー—教科書からサブカルチャーまで」の開催について

- 1 提案者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること

記

- 1 主 催 日本学術会議・史学委員会歴史学とジェンダーに関する分科会
- 2 共 催 ジェンダー史学会、総合女性史研究会
- 3 後 援 イギリス女性史研究会、イメージ&ジェンダー研究会、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター、京都橘大学女性歴史文化研究所、国際基督教大学ジェンダー研究センター、女性史総合研究会、中国女性史研究会、東京女子大学女性学研究所、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学研究センター、一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学研究センター、歴史科学協議会、歴史学研究会、歴史教育者協議会、早稲田大学総合研究機構ジェンダー研究所
- 4 日 時 2009年12月13日(日) 13:00～17:00
- 5 場 所 日本学術会議講堂
- 6 分科会 同日に分科会開催予定
- 7 開催趣旨

我が国は、1999年男女共同参画社会基本法を公布、即日施行し、男女共同参画社会の実現に向け大きく一歩を踏み出した。しかしながら、日本におけるジェンダ―格差は、21世紀に入った今日でも他の先進諸国に比べ格段に開いているのが実状である。このような状況になっているのはなぜなのか、男女共同参画社会を実現するための有効な手立ては何なのかを考えていく場合、日本におけるジェンダ―の歴史的変容を解明することは、不可欠な学問的営為であると同時に、その研究成果が教育を通じて国民に共有され、歴史認識ならびに歴史意識の深みから男女共同参画社会実現への道筋を見通していくことも重要であるとする。

本シンポジウムは、現代日本の歴史教育をジェンダーの視点から見直し考えていくことを主眼としている。その場合、グローバル化する現代世界において、諸外国の歴史教育も視野に入れつつ問題点を明らかにすること、さらに、歴史教育を学校での教科書を使った授業という範囲にとどめることなく、マンガなどサブカルチャーの分野で活発に展開されている場合も広義の歴史教育として捉え、検討の対象とすることにした。

8 次 第

- 13:00 開始
司会 姫岡とし子（東京大学教授・連携会員）・三成美保（摂南大学教授・連携会員）
- 13:00～13:10 趣旨説明 長野ひろ子（中央大学教授・連携会員）
- 13:10～13:25 高校世界史教科書のジェンダー化にむけて—日本とアメリカの比較
富永智津子（元宮城学院女子大学教授・連携会員）
- 13:25～13:35 古代ギリシアの社会をジェンダーの視点から読み解いてみる
桜井万里子（東京大学名誉教授・第一部会員）
- 13:35～13:45 奴隷貿易にジェンダーの視点をクロスオーバーさせる
井野瀬久美恵（甲南大学教授・連携会員）
- 13:45～14:00 高等学校日本史教科書にみるジェンダー
久留島典子（東京大学教授・連携会員）
- 14:00～14:10 女性史・ジェンダー史の成果は教科書に生かされているか—日本近世の場合
長野ひろ子（中央大学教授・連携会員）
- 14:10～14:20 歴史教育の役割—「歴史」と「自分」を架橋するために
荻野美穂（同志社大学教授・連携会員）
- 14:20～14:40 ミュージアムとジェンダー—展示による経験の可視化をめぐって
香川檀（武蔵大学教授・特任連携会員）
- 14:40～15:00 「女たちは歴史が嫌い」か？～少女マンガの歴史ものを中心に
藤本由香里（明治大学准教授・特任連携会員）
- 15:00～15:20 休憩
- 15:20～17:00 討論
- 17:00 終了

9 関係部の承認の有無：第一部承認

10	
幹事会	83

提 案

シンポジウム「学術コミュニティと知的財産制度」の開催について

1. 提案者 科学者委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議科学者委員会知的財産検討分科会
2. 共 催：社団法人日本知財学会 ほか
3. 後 援：研究・技術計画学会 ほか
4. 日 時：平成21年12月14日（月）15：00 ～18：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 参加費 無料
7. 分科会の開催：分科会を同日開催
8. 開催趣旨：
日本学術会議・科学者委員会・知的財産検討分科会における検討を踏まえて、学術コミュニティに対する知的財産制度の影響、今後どのような知的財産制度を構築すべきか、それに向けて学術コミュニティの側から何を提言して行くべきか、といったことについて、論点を整理した上で、議論を行う。
9. 次 第：
開会の挨拶（15：00～15：10）
藤嶋昭（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員長）
I 基調講演（15：10～15：30）
荒井寿光（東京中小企業投資育成株式会社 代表取締役社長）（予定）

Ⅱ 知的財産検討分科会におけるアンケート調査の結果報告（15：30～15：50）

渡部俊也（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 幹事）

Ⅲ パネルディスカッション（15：50～17：55）

モデレーター：隅藏康一（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 幹事）

パネリスト：

入江正浩（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員）

須田年生（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員）

長岡貞男（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員）

古川勇二（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員）

松本恒雄（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 委員）

閉会の辞（17：55～18：00）

野本明男（日本学術会議 科学者委員会 知的財産検討分科会 副委員長）

10. 関係部の承認の有無：無

1 1	
幹事会	8 3

提 案

公開シンポジウム

「持続可能な食料生産：RS/GIS/GPS 技術の応用」の開催について

1. 提案者 農学委員会委員長、食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農業情報システム学分会
2. 共 催：畜産学分会、水産学分会
3. 後 援：日本森林学会、システム農学会、水産学会 他
4. 日 時：平成21年12月17日（木）13：30～17：30
5. 場 所：日本学術会議6階 6-C会議室
6. 分会会の開催：同日分会会を開催
7. 開催趣旨：

世界の持続的な発展のためには、再生可能な資源を生態系と調和させながら生み出す農林水産業の役割は大きく、特に持続可能な食料生産の確保は、人類にとって最も大きな緊急課題である。そのためには、GPS 技術なども含む地理空間情報技術や宇宙からのリモートセンシング技術などの研究開発、人材の育成が、学術の振興の立場からも急務である。今回は、WG の学術的な方向性を幅広く俯瞰的に認識する必要性からシンポジウムを開催し、関係者から広く意見聴取並びに情報交換を行い、WG へのフィードバックを期待する。
8. 次 第：

開会あいさつ：野口 伸（北海道大学大学院農学研究院教授、日本学術会議

会員・農業情報システム学分科会委員長)

I 講演 (13:40~16:10)

- 1) 「食糧ー環境インテリジェンスに向けた農耕地生態系計測ーリモートセンシングと空間情報技術の活用ー」井上吉雄 ((独)農業環境技術研究所 生態系計測研究領域上席研究員・リサーチプロジェクト研究リーダー、筑波大学大学院教授(併任))
- 2) 「陸域環境モニタリングへの応用」大政謙次 (東京大学教授、日本学術会議連携会員・農業情報システム学分科会委員)
- 3) 「森林の保全への応用」加藤正人 (信州大学教授、日本学術会議農業情報システム学分科会オブザーバ)
- 4) 「沿岸域環境モニタリングへの応用」小松輝久 (東京大学准教授、日本学術会議農業情報システム学分科会オブザーバ)
- 5) 「漁業・増殖業への応用」齊藤誠一 (北海道大学教授、日本学術会議連携会員・農業情報システム学分科会・水産学分科会委員)

休憩 (16:10~16:20)

II パネルディスカッション「持続可能な食料生産へのRS/GIS/GPS技術の応用」 (16:20~17:20)

コーディネータ：齊藤誠一

パネリスト：大政謙次 (農学からの視点)

加藤正人 (林学からの視点)

和田時夫 (水産学の視点)

柴崎亮介 (地理空間情報科学からの視点)

小川健太 (実用化からの視点)

閉会あいさつ：澁澤 栄 (日本学術会議連携会員・農業情報システム学分科会副委員長)

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 2	
幹事会	8 3

提 案

公開シンポジウム

「第3回形態科学シンポジウム：『生命機能の場を提供する生体膜』-その創成とトポロジー形成-」の開催について

1. 提案者 基礎生物学委員会委員長、統合生物学委員会委員長、基礎医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同細胞生物学分科会、基礎医学委員会形態・細胞医科学分科会
2. 後 援：日本解剖学会、日本細胞生物学会、日本組織細胞化学会
3. 日 時：平成21年12月21日（月）、13：00～17：10
4. 場 所：九州大学病院地区キャンパス内
コラボステーション 2階 視聴覚ホール
(福岡県福岡市東区馬出3-1-1)
5. 開催趣旨：
現在、基礎生物学・基礎医学の分野に、新たに加わる若手研究者が激減している。この現状を踏まえ、各地区で形態科学の魅力と形態学分野の将来的な展望について、学生、院生、若手研究者を中心に、この分野で活躍されている先生を中心に講演会を開催する。これによってより充実した、啓蒙活動を行なう。
6. 分科会の開催：同日分科会を開催予定
7. 次第
 - 開会の挨拶 柴田洋三郎（日本学術会議連携会員、九州大学大学院医学研究院形態機能形成学教授）
 - 細胞内リサイクルシステム - オートファジー-の膜動態を支える分子群
大隅良典（日本学術会議連携会員、東京工業大学統合研究院先進研究機構特任教授）

○真核細胞の起源 - オルガネラ分裂装置から解く

黒岩常祥（日本学術会議会員、立教大学大学院理学研究科・極限生命情報研究センターセンター長・特任教授）

○生体機能とモーター分子群 KIFs: 生体膜ダイナミクスを中心として

廣川信隆（日本学術会議会員、東京大学医学部教授・同大学院医学系研究科教授）

○オルガネラの形成とその障害：ペルオキシソームを中心に

藤木幸夫（日本学術会議連携会員、九州大学教授）

○核膜を介した物質流通と生命機能

米田悦啓（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院生命機能研究科教授）

○閉会の辞 藤木幸夫（日本学術会議連携会員、九州大学教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

13	
幹事会	83

提 案

第 59 回理論応用力学講演会の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 共 催（予定）：応用物理学会、※化学工学会、地盤工学会、土木学会、日本応用数理学会、日本風工学会、日本機械学会、日本気象学会、日本計算工学会、※日本建築学会、日本原子力学会、※日本航空宇宙学会、※日本材料学会、日本地震工学会、※日本数学会、日本船舶海洋工学会、日本伝熱学会、日本物理学会、日本流体力学会、日本レオロジー学会、農業農村工学会（※印 幹事学会）
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成22年6月8日（火）～10日（木）（三日間）
5. 場 所：
日本学術会議1階講堂と5階フロアー（5会議室）
講堂：3件の特別講演、3件のパネル討論に使用。
会議室：200件程度の研究発表に使用。
6. 分科会の開催：6月8日に開催予定
7. 開催趣旨：

「理論応用力学講演会」は力学に関する最も権威ある国際組織 IUTAM の開催する国際会議の国内版として長年開催されてきた。力学分野が細分化する中で、各々の分野の先

端的研究成果に関する最新動向を共有するとともに、各分野が共通に抱える問題や将来への展望についても分野を超えて情報交換することが本講演会開催主旨である。

8. 次 第：

開催日の最初に、日本学術会議 機械工学委員会、土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長の挨拶をする。分科会委員、総合工学委員会、機械工学委員会合同力学基盤工学分科会委員を中心として、力学分野の国際貢献、国内力学連合の今後、力学教育のあり方などに関するパネル討論を実施する予定である

1. 挨拶

6月8日(火) 13:00～13:15

日本学術会議 機械工学委員会，土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長
小林敏雄

第59回理論応用力学講演会運営委員会委員長

2. 特別企画

特別講演(3件)

6月8日(火) 13:15～14:15

6月9日(水) 13:00～14:00

6月10日(木) 13:00～14:00

パネルディスカッション(3件)

6月8日(火) 14:30～17:00 1件，講堂

6月9日(水) 9:30～12:00 2件，講堂，会議室

3. 研究発表

オーガナイズドセッション (20セッション，研究発表各8件程度)

一般セッション (8セッション，研究発表各5件程度)

6月8日(火) 9:30～12:00 6室(講堂+5会議室)，研究発表50件

6月9日(水) 14:15～17:00 6室(講堂+5会議室)，研究発表50件

6月10日(木) 9:30～12:00 6室(講堂+5会議室)，研究発表50件

14:15～17:00 6室(講堂+5会議室)，研究発表50件

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

14	
幹事会	83

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審 議 付 託 先
第4回けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム ① 主催：財団法人関西文化学術研究都市推進機構、独立行政法人日本原子力研究開発機構光医療研究連携センター、けいはんな光医療産業バレー研究会 ② 期間：平成21年10月29日 ③ 場所：けいはんなプラザ（京都府相楽郡）	財団法人関西文化学術研究都市推進機構理事長	第二部
第3回日本化学連合シンポジウム「我が国の科学技術政策と日本化学連合への期待」 ① 主催：日本化学連合 ② 期間：平成21年11月14日 ③ 場所：化学会館	日本化学連合会長	第三部
平成21年度工学教育連合講演会 ① 主催：社団法人日本工学教育協会 ② 期間：平成21年11月28日 ③ 場所：早稲田大学理工学術院55号館大会議室（西早稲田キャンパス）	社団法人日本工学教育協会会長	第三部